

稲作



今年度JAあきた白神稲作部会で行った肥料試験の紹介

1. ケイ酸入り基肥重点型588

●特徴

- ・L型の基肥重点銘柄でケイ酸入りである
- ・ケイ酸源は全量、ケイ酸カリ由来である
- ・この銘柄を50kg施肥した場合、ケイ酸カリが現物で20kg入る

●試験目的

- ・高窒素L型の基肥一発銘柄の効果試験
- ・追肥労力の低減
- ・ケイ酸施用による効果確認

2. セラコートR入り複合299

●特徴

- ・窒素成分が速攻性と3種類の緩効性から構成された基肥重点型肥料である
- ・高温年による生育後期の稲体活力が維持できる
- ・粒径が揃っており機械施肥（側条施肥田植機、背負式動力撒布機、ブロードキャスター）にも好適である

- ### ●試験目的
- ・高窒素L型の基肥一発銘柄の効果試験
 - ・追肥労力の低減
 - ・ケイ酸カリ追肥による効果確認

試験区の構成

区の構成	肥料名	基肥 (kg/10a)		追肥 (kg/10a)			
		施肥日・施肥法	現物施用量	同窒素量	施肥日	肥料名	現物施用量
試験区1	ケイ酸入り基肥重点型肥料588	5/10・全層	50	7.5			
試験区2	セラコートR入り複合299	5/10・全層	34	7.5	7/12	ケイ酸カリ	20

収量調査 (10月13日調べ)

区名	精玄米重	くず米重	千粒重	整粒歩合	タンパク	アミロース	食味値
試験区1	636.0	72.0	21.0	81.4	6.4	19.8	73
試験区2	612.0	78.0	21.0	77.8	6.5	19.8	72



試験区1 ケイ酸入り基肥重点型肥料588



試験区2 セラコートR入り複合299



栽培試験結果について JA担当者のコメント
 ・両試験区とも収量については10a当たり600kg以上となり、肥料の特徴が十分発揮されたと感じました。しかし、両区とも登熟が悪く屑米が多くなり8月の日照不足の影響が現れた結果となりました。また、食味値も平年より3ポイントほど低い評価でした。近年の稲作は夏の高温障害に悩まされてきましたが、天候不順の年は冷害対策（日照不足）も必要となります。土づくりに肥料の施用はもちろん、ケイ酸カリの施用も効果的です。稲作部会では、次年度に今回の試験結果を踏まえ、白神米の食味向上に向けた試験圃として「ケイ酸カリ」をより効果的に施用し、天候不順でも高品質の米を生産できるような展示圃を設置する予定です。

